文部科学省家庭教育支援フォーラム　2026.2.6.

子どもへのかかわりのポイント
－子どもとの信頼関係創出と“勇気づけ”－

🎲 爺の子育て＆共育相談室・代表
山形県教育カウンセラー協会・代表

松﨑　学

SDGs(持続可能な開発目標)目標4
質の高い教育をすべての子どもに。

与えられたキーワードは、【不易】の「親のあり方」「子どもとの接し方のポイント」「民主的なかかわりにおける信頼関係構築」「勇気づけ」等。
アドラーの個人心理学／親学習プログラムSTEPに基づいてお伝えするつもり。
（現状の課題）タテからヨコへの変革が進む中で、子育てと教育は従来通り。昔ながらの大人のかかわりが、この時代に生きる子どもとのミスマッチが拡大している？

０．自己紹介

- **松﨑　学**(まつざきまなぶ)：1954年生まれ。長崎出身の71歳。山形に来て30年、人生の中で一番長く暮らしたところ。好きなことば：「ああ、このろくでもない、すばらしき世界」
- **長男**が、風疹の胎内感染による**高度難聴児**として生まれ、我々夫婦としては、息子が**障害を持っていても自立できる人間に育てるためにどうやっていけばいいか**、模索しながらやってきた。息子のおかげで、親としても成長させてもらえたかも。
- **小３の息子は学校から帰宅すると毎日のように泣いた。**「みんなと同じように耳が聞こえるようになりたい」と。「そうあるといいよね」と抱きしめてともに泣いた。その**障害受容**を果たしてほしくて、「**ひらめの合宿**(平井信義先生が主催。当時、大妻女子大学教授)」に２回参加。当時、息子は「なんで他の子よりも違う勉強もしないといけないの？」とも言っていたので、３年でのキャンプ後に、**“無言の行”を実施。**一時的に成績も落ち、「あまりにも早く手を離しすぎたのでは？」とは学校から。しかし、５年生で障害受容の最初の山場を乗り越えたかな。
- 難聴児親の会の合宿としてスタートし、大分で**「ふれあい合宿」として10年間。課題**は学生**スタッフのかかわり**。事前学習しても、子どもを目の前にすると、**自分が子ども時代に受けたかかわりをそのまま実践する学生たち**。**STEP**に出会い、一部の学生に実施すると、**それまでとは異なるやりとり**が…。以来、山形でのキャンプ･スタッフには全員事前学習としてSTEPを。
- 山形でも**「チャレンジ･キャンプ」として５年**実施。もちろん学生スタッフにはSTEP受講も。
- **山五小で「さんさんプラン」として共同研究。STEP**導入。３年の積み上げの成果は？
- 人格(**知･情･意**)が**良く発達**：**ASS**≒54-57、**高い本来感**と**主体性**など/**いじめも不登校0に**。

1．アドラー心理学の考える教育と子育ての目標（岸見, 1999より作成）

行動面の目標

1．**自立する**

2．**社会と調和して暮らせる**

心理面の目標

1．**私は能力がある**（自己受容・自尊感情・有能感）

2．**人々は私の仲間である**（他者信頼・所属感・貢献感）

ライフスタイル：**自己や世界についての意味づけの総体（信念）**

「**行動は信念から生まれる**」と考えるので、**子どもと接する親や教師は、そのかかわりが適切な信念を育てる**ことのできる**かかわり**になっているか、**心して選択**しなければならない。できれば、約**10歳までに適切な信念を**！

岸見一郎(1999). アドラー心理学入門 KKベストセラーズ

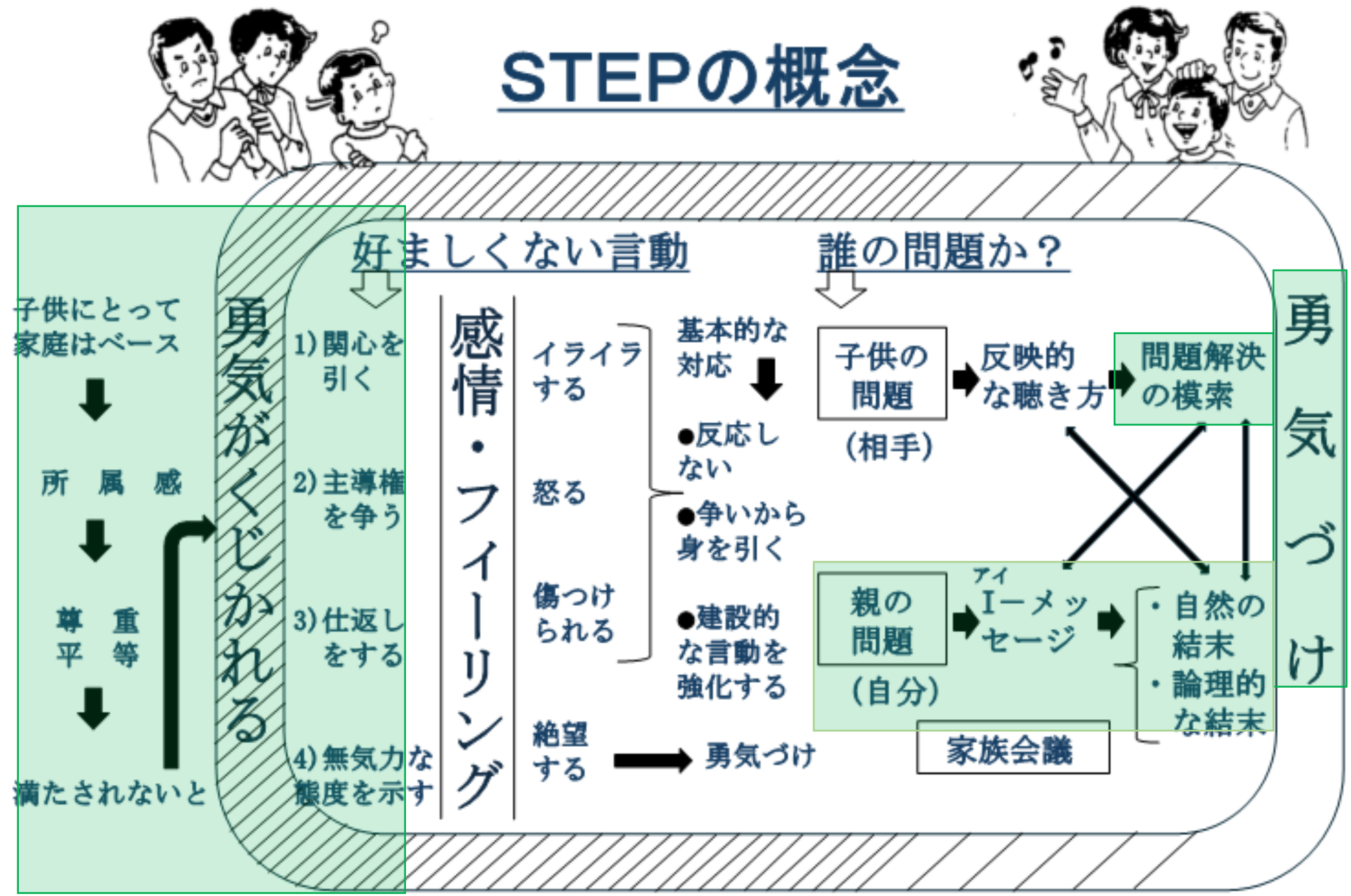

図1．STEP概念図(STEP勇気づけセンター，2025)

注1．とりあえず、この場で扱うのは、薄緑の部分。

注2．アドラーの愛弟子ドレイカースの指導の下、**ディンクメーヤーとマッケイ(1976)によって開発された親学習プログラム。民主的な親子関係のもとで、責任感と協調性のある子どもを育てることに、“責任ある親”を選択・実行することができるように、親として自分で自分を育てる。**

21世紀に求められる関係性の変革は？ ……横軸の移動を！

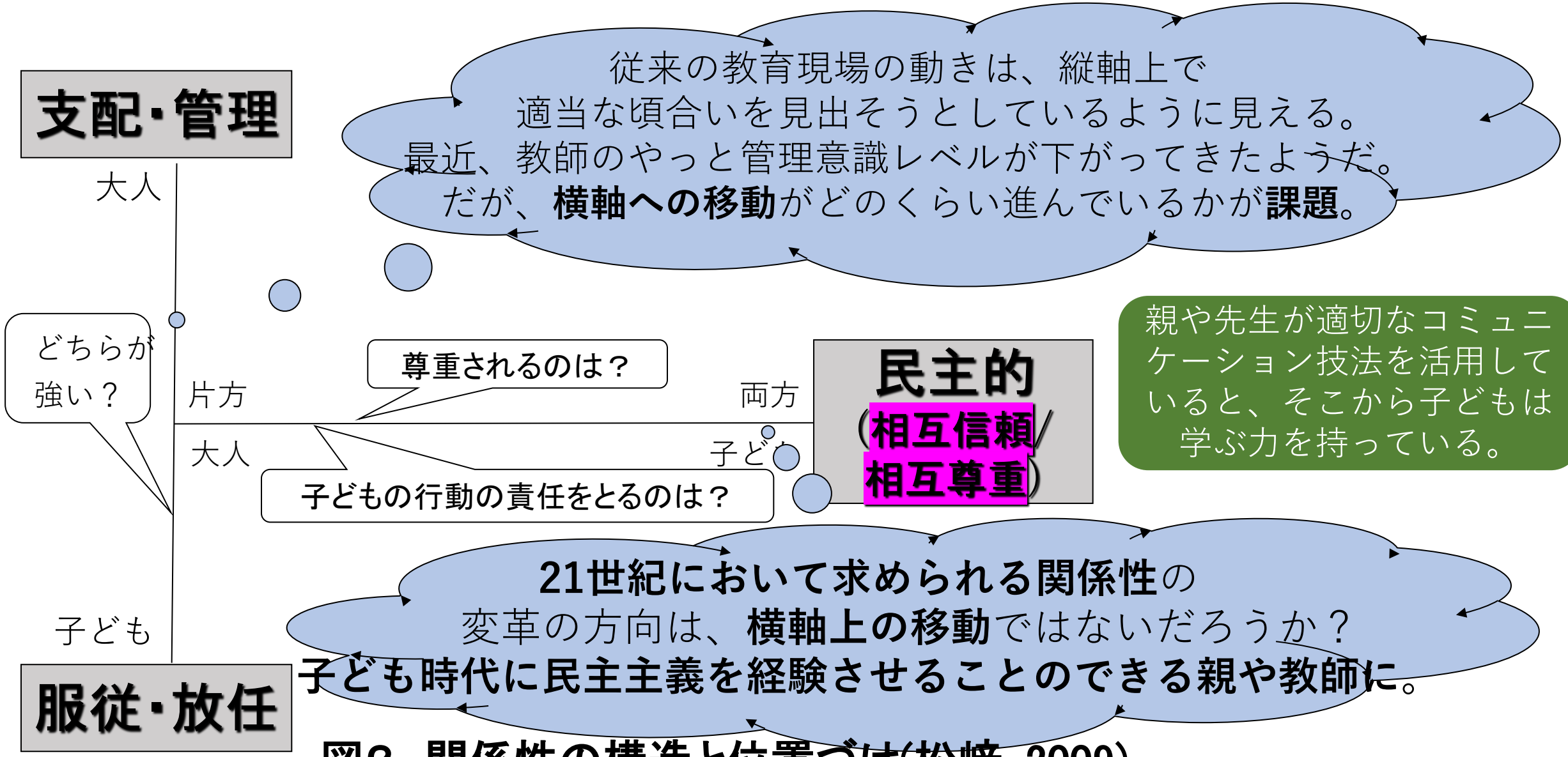

図2. 関係性の構造と位置づけ(松﨑, 2009)

松﨑学(2009). ある公立学校における取り組みの総括と今後の日本の教育への提言　山形大学教職・教育実践研究, 4, 71-82.

事例①：ファミレスで、グズグズ泣いている２歳の娘に…

- 大学生の兄が帰省していて、家族５人でファミレスでの食事に出かけた。注文後に、２歳の娘がぐずりだした。妻は、ふと、STEPでの学びを想い出して、娘をいったん外に連れ出して、立っている娘の泣きが少し弱まったとき、妻は腰を落とし目線を合わせて、言ってみた、「あのね、**あなたが泣いているとみんなで楽しく食事ができないから、お母さんは残念だなと感じる**の。**あなたが泣いているのならこのまま食事をしないでみんなが食べ終わるのをここで待つか、泣くのをやめて中でみんなと一緒に食事を楽しむか、どちらがいい？**もちろん、外で泣くのを選ぶのならお母さんもつきあうよ」と。娘は、「泣き止んでみんなと一緒に食べる」と選択し、中に入ると、ピタッと泣き止んでみんなと食事を楽しんで帰宅することができた。(**“勇気づけ”**も？)
- 妻としては、とりあえず、こちらの思いを伝えて、あとは本人の選択にまかせてみようということだったらしい。中に入って泣き止んだ娘を見て、息子が「何をしたの？」ということで、このように**“I-メッセージ”**して**“選択の余地”**を与えた旨、話したことに。…この経験で、妻自身、２歳児でも話せばわかるんだとあたらめて認識する機会になったとのこと。(**“子どもの能力への信頼”**)
- その後のいろいろは次のスライドで。

その年齢なりに、子どもは自分の行動を選択する力、その自己決定に責任を持つ能力を持っている！協調性も。

その後のいろいろ

- 息子の関係で、「難聴児親の会」の世話もしていた妻は、その**会議等、娘を連れて**行かなければならなかった。で、事前にその旨話し合った、「お母さんは大事な会議だから、一緒に行ってそばにいていいんだけど、**あなたが騒いだり泣いたりしたら、会議に集中できてなくなって困るんだ**。**その会議の時間、あなたは自分で静かに過ごすこと、できるかな？どんなふうにして、その時間を静かに過ごす？**」と。その結果、娘は、絵本やお絵かきを持参してそのそばで一人でそれらをして過ごすということを選択し、かつ、実行できた。⇒「**おかげで大事な会議がうまく進んだよ。協力してくれてありがとうね**」の**“貢献への感謝”**という側面の**“勇気づけ”**。　（**“問題解決への模索”**）
- **講演**を聴きに行くというときや**映画**を見に行くときは、**娘は、抱っこされての昼寝でその時間を過ごすことを選択**し、実際そのようにしたらしい。
- 何かの関係で、妻自身、ときには昔の自分に戻り、STEP的ではなく、**感情的になるときも**あったが、そのときは、**娘から、“お母さん、何なの？”的な視線と表情で反応**され、**妻自身**、“ああ、だめだ、つい前の自分でやってしまった”と**気づいて修正**することを教えられたとのこと。（**子ども観・教育観の修正**）

“育児は育自”のことば通り、子育てを通して、親としての成長がなされるのが、中年期の発達課題。

その一つ、娘が５歳のとき、妻が感情的になって怒り…

- 「**あんたね**」のことばが出たとき、娘からの、「**私、あんたじゃない、ちゃんと名前がある！**」のことばでハッとさせられたことも。(**妻の失敗例**)
- この年は**1999年**。奇しくも、私自身、同様の経験をしていた。
- **事例②**：**幼稚園の公開保育**にいき、一通りあちこち見回った後、**４歳男児**が一人で工作的な活動をしていたので、それを見守ることにした。そして、そのそばで見ていると、ときどき彼はこちらにも視線を向け、いろいろと話してくれた。しかし、公開保育では外部からの人間は子どもと話してはいけないことになっていたので、「ふうん」とか、「へぇ、そう」などの相づちを打つ程度で反応していた。ところが、途中で、彼の話の文脈が変わり、４歳児が言った、「あのね、**ボク、ときどき悲しくなることがあるんだ**」と。そんなこと言われると、つい聞いてみたくなった、「ふうん、どういうこと？」に対して、「あのね、**お父さんやお母さんに“おまえ”って言われた**とき」とのこと。驚いた、私の子ども時代には父母から「おまえ」など言われても何の違和感も感じていなかった時代だったが、いったいどういうこと？と驚きとともに、疑問符が頭の中で飛び交うことになった。

さらなる体験を通して気づきが…

- **事例③**：もう一つあった。**1999年**の秋には、**「サザエさん」の30周年記念番組**があった。30年前の白黒アニメが放映された。…**カツオが悪さ**をすると、**波平父さん**は、「こらーっ、カツオ！」と言って、**ゲンコツ**がカツオのイガグリ頭に。…“ああ、あの頃はそれがふつうだったなあ”と懐かしみつつ、“待てよ、最近のサザエさんチはどうなってんだ”としばらく意識的に視聴した。もちろん、**カツオが悪さ**をする場面を待った、それへの**波平父さんの対応**はというと、これがまた驚きであった、…「カツオ、そこに座りなさい。どういうことなんだ？」とまず**聞く耳**がそこにあった。それだけでなく、聞き終えた波平父さんは腕組みしながら言った、「うん、カツオ、おまえの気持ちもわかる」と**共感**。…で、再びの驚きであった。“何これ、カウンセラーみたいじゃん。**そんなに変わったの？**”と。
- そして、**“30年間で、親子関係にこんな変化**が起こっていたんだ。アハ体験同様、**時間軸でのゆっくりした変化に我々は気づきにくい**が、このように30年を挟んで見ると、その違いがよくわかる”と納得した。しかし、時間軸でジワジワと変化するこの世の中で**我々は、そのような変化に気づかないまま、多くの場合、昔ながらの子育てを続けているようだ**、と。

たどり着いた一つの仮説は…

- …平成に生まれて育っている子どもたちは、世の中の新しい風に吹かれて育ち、**自分を尊重されない扱いに対してちゃんと悲しいと感じることのできる感受性を持った子どもたちが育ってきている**。にもかかわらず、大人たちは**昔ながらの**“ほめる/叱る”に依存した**タテの関係性にもとづく子育て**で、**今の時代に生きる子どもとの間でミスマッチ**を起こしているようだ、と。
- その**’90年代**、1992年に当時の文部省は「**不登校は誰にでも起こりうる**」と示し、不登校が増加していた。もちろん、学校での教師-子ども関係も基本的にはタテ関係のままだったのはいうまでもない。「**子どもの権利条約**」も1994年には批准したが、毎回、国連からのコメントは“その趣旨が生かされていない” だった。親は、子どもを自分の付属物のように扱っていた(パチンコ屋の駐車場で何人もの幼児等が死を迎えたことに)。
- 最近も2010年代から急増している不登校だが、…**当時の文部省のそのことば**は、個人的には**条件つき**だったと理解している。すなわち、**従来通りの関係性での教育を続けるかぎり**、ということだ。
- 話を家庭教育/親子関係に戻すと、親たちは、**この時代に見合う関係性にもとづく子育ての考え方と方法に変革していく必要性あり？**

日本の子どもの育ちがいまいちなのは関係性の問題？

- 今の時代に生きる子どもから見れば、もしかしたら、**“こんな関係性の中ではこれ以上よく育つことができないよぉ”の叫び**が、**不登校などの症状**として表現されているのかもしれない。**ユニセフ調査2020**は、**日本の若者の精神的幸福度が先進諸国38か国中37位**というのもわかる気がする。…**この現状、残念でならない**。
- しかし、**STEP的アプローチを３年積み上げて得られた小学校**のデータからは、**親も先生ももちろん子どもも、それができる力を持っている**こと、教えてもらった。**親や先生方がその力を発揮する**には、**まずはその情報提供**なくして、どうしたらいいかわからないまま？そしてその関係性の中では、子どもがよく育つということが実現するに違いないと信じている。**SDG’sの目標4達成？**
- そう考えると、大人が悪いというのではなく、そのように自分が体験した子育てや教育しか知らないのだから、仕方がない。どちらかというと、**関係性の問題**。しかし、激動の21世紀で、かつ、生涯学習の時代なので、この時代に見合う子育ての新たな考え方と方法を知り、実践すること、それが求められているように思えてならない。**関係性を変革/創出できるのは、大人側**だから。

UNICEF調査2020　https://www.unicef.or.jp/news/2020/0196.html

3. 親学習プログラムSTEPとは？（松﨑, 2007）

アドラーの愛弟子ドレイカースの指導のもと、Dinkmeyer & Mckay(1976)によって開発された親学習プログラム

Systematic **T**raining for **E**ffective **P**arenting の略

・二大親学習プログラムの一つ

①**親業**：ゴードンによって開発されたもので、ややハウツウ中心。

②**STEP**：**民主的な親子関係のあり方**という**理念**とそこでなされる**コミュニケーション技法**（**方法**）を**ワンセットで学ぶ**ことができる。

例．**STEP概念図**（次のスライド）

“悪循環”を断つ/玉石混淆のかかわりを整理する**二つの視点**と**具体的対応/コミュニケーション技法**

①**“好ましくない言動の目標”**

②**“誰にとっての問題か”**

松﨑学(2007)．アドラーの親支援プログラムSTEP　家族心理学年報, 46-58.

Dinkmeyer, D. & Mckay, G. D.(1976). *Systematic training for effective parenting: Parent‘s handbook.* American Guidance Service, Inc.(柳平彬(訳) 1982　子どもを伸ばす勇気づけセミナー：STEPハンドブック１・２　発心社)

4．子どもの建設的な言動への対応：“ほめる”替わりに“勇気づけ”

“ほめる”ことが効果的な条件（Dinkmeyer & Mckay, 1976）

1．子どもが**親を尊敬**していて、

2．ほめられたいとは思っていても**ほめことばに依存的にならない**場合

例．「ねぇねぇ、ぼくの描いた絵、うまい？」

＊**低-中学年くらいまでの子ども**は、“親や先生の望む自分でありたい”という思いが強く、“ほめことば”に弱い。その発達段階にかかわる大人は、自分の子ども観や教育観の見直しも必要？また、その時期では、大人からのことばかけで、自己概念が形成されることが多い。

＊ことばの裏に親の価値観を押しつける意味合いや子どもを意のままにコントロールしようという思いがあると、NG！＝“ほめことば”？

つまり、“ほめる”はタテのコミュニケーション

“ほめる”のではなく、“勇気づけ”を！

Dinkmeyer, D. & Mckay, G. D. (1976). *Systematic training for effective parenting: Parent‘s handbook.* American Guidance Service, Inc.(柳平彬(訳)(1982). 子どもを伸ばす勇気づけセミナー：STEPハンドブック１・２ 発心社)

ほめることの副作用…この絵が意味しているもの？

図3. 隣の子の絵がほめられたその横にいた5歳女児は…

“暗黙の強化”：
集団事態で“ほめる”が使われると、
低学年など、同じような絵がたくさん出てくることも。で、**ほめられない子は、自分の絵は下手だと言われているのと同じ影響を受ける**。

子どもは、ほめられるために絵を描いているのではない。
この絵でも、この子がおばあちゃんとお姉さんを描いているということは、その二人のことをたぶん好き？
それを確認しつつ、「大好きなおばあちゃんやお姉ちゃんがいてくれて良かったねぇ」とその思いに共感することができる。
そうして、自分の思いを絵に表現して、それを共有できる他者の存在がうれしいのでは？

表1. “ほめる”と“勇気づけ”の違い（柳平, 2008）

	ほめる	勇気づけ
対　　象	できる子ども	できる子どももできない子どももだれでも
考 え 方	・親の価値判断を押しつける	・子どものありのままを評価し受け入れる
	・一種のほうびとして勝った者、一番よい者に与えられる	・どれだけ努力し、どれだけ進歩したかを認める
競争原理のタイプ	対他競争(他人との競争)	対自競争(自分の中でよりよくなろうとする)
感　　情	親の感情を伝える	子どもの感情を認める
その結果	周りの評価を気にする自主性のない子	自分でやる気を起こす自立心のある子

柳平彬(2008). こう言えば良かったのか！　ダイナミックセラーズ出版

「勇気づけの基本原則」 (Dinkmeyer & Mckay, 1976)

子どもにとって、身近な大人が自分の力を信じてくれて、自分でもその力を信じることができるとき、持てている力を発揮することができる。

子どもの身近な存在である大人が、まずできることは？

“子どもの能力への信頼”

子どもは失敗しないで何でもうまくできると**過信するのではない**。子どもなりに**選択する能力や決断する能力**、**実行する能力を持ち**、**失敗**したとしてもそこ**からより良い行動を学ぶことのできる力を持っていると信じる**。ただし、子どもの能力に依存していない。**親自身、子どものその力を信じると自己決定できるかどうかの問題**。**相互信頼の出発点は大人側から**。

勇気づけとは：「自分には課題を達成できる能力があるという自信を持つように援助することができれば勇気づけができた、ということ(岸見, 1999)」

Dinkmeyer, D. & Mckay, G. D. (1976). *Systematic training for effective parenting: Parent‘s handbook.* American Guidance Service, Inc.(柳平彬(訳) 1982 子どもを伸ばす勇気づけセミナー：STEPハンドブック１・２ 発心社)

岸見一郎(1999). アドラー心理学入門 KKベストセラーズ